

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行 NO. 1984	
日 時 2022 年 04 月 28 日 (木) 晴・風なし	
山 域 富士山・日沢 (最高到着点・3350m)	
コース 長泉 8:30 ー富士宮周遊道 10:30~11:00 ー五合目発 11:50 ー八合目 15:13 ー九合目下・3350m 15:40 ー後藤滑降開始 15:50 ー日沢滑降ー六合目下・標高約 2550m で終了 16:37 ー五合目 17:25 ー長泉 (反省会)	
標高差 上り 五合目約 2370m~九合目下・最高到達点 3350m=約 980m 滑降 最高点 3350m~六合目下約 2550m=約 800m	
藪漕度 なし	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<h2>何故かパトカーの先導で上る山</h2>	
参加者 後藤、加藤、井上 = 3 名	
ど〜が〜 (動画) <a href="http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-23.mp4">http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-23.mp4</a>	

連休は、28日から東北山岳スキーツアーの予定だった。ところが天気が悪い。月山・鳥海山など予定したが晴天が続かない。山中泊の場合、最低2日の晴天が必要。スキーの場合、登山と違い、天気が悪いと滑れない。

そんなことだったが、折角、休暇を取得したI君のこともあり、兎に角、何処かで一本で周遊道開通の富士山に向かった。



開通作業



最初の方

周遊道の開通は11時。ゲートに、すでに2台車がいた。我々は3番目だった。もっと長蛇の列と思ったが、そうでなかった。ゲートで作業車が大きなコンクリ・ブロックをクレーン車で片づけている。

NHKなどのカメラが取材をしていた。帰宅し21時のNHKニュースをみたら、拙車が写ってい

た。トップのオープンカーの方にインタビューをしていた。開通し、何故かパトカー先導で五合目に上る。パト先導の山なんて初めてだ。通常、富士山スキーは、五合目を遅くも7時に出発する。11時では、体調が狂うが、16時まで行ける所まで行こうで出発した。

今年は裏日本で大雪だった。富士山も同様と思われるが、実は逆だ。雪は昨年5月15日より少なかった。ガッカリだった。富士山の場合、多くの雪は、南岸低気圧でもたらされる。冬型では降雪は殆どない。

雪が少ないと「歩き」が多くなる。スキーは極力「歩く」ことは避けたい。折角の「機動力」が生かされない。1時間歩く所は、スキーなら5分。重いスキーを背負っての歩きは辛い。11:55、富士宮口・五合目発。天気は、下界は雲だったが上界は良かった。風はなく温かい。ペラペラの服でも寒くなかった。



雪が少ない・1

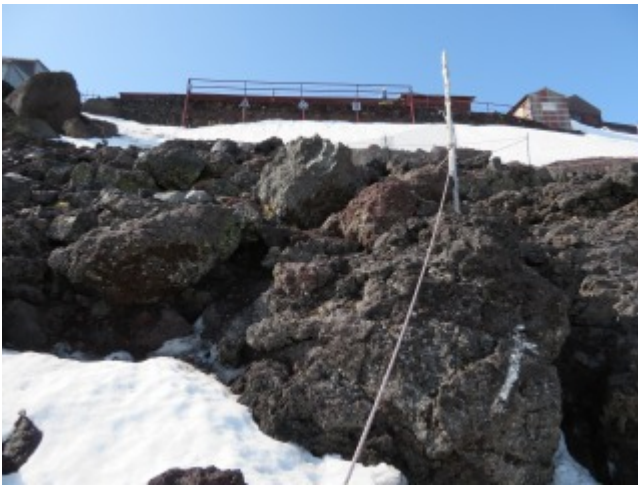
登山者は誰も居なかった。3名で富士山貸し切り。登山者が、もっと多いと思ったが意外だった。雪がないからスキーは背負って行く。新六合・六合と進むが雪は少ない。これでは帰りの歩きが長くなりそう。

それでも頑張る。下から男性の登山者が一人来て抜いていった。山頂まで行くと言った。結局、今回の富士山は、最後まで、たったの「4名」だった。

苦しい登山が続く。富士山はいつも厳しい。何故か。ズバリ、「標高が高い」からだ。常に登山をしている我々だが、意外と3000m以上の登山は少ない。



雪解け



八合目



八合目上



八合目上

近場でアプローチが身近な、八ヶ岳最高峰・赤岳でも3000mに満たない。登山者にとって、3000mは一つの壁なのだ。富士山は、七合下で既に3000mある。七合になれば、体は馴染みのない3000mを越える。従って体は悲鳴を上げる。それでも、15:16八合目に達した。標高は約3250m。時間は16時がタイムリミットだから、そろそろである。



滑降・1

八合から上の夏道は左手で真っすぐは雪渓が続く。KとIは、雪渓を上ったが、私は夏道を行った。滑降時、夏道がエントリーし易い。スキーを着け易い所で終了。15:45だった。九合下で標高は約3350m。

五合目が2352mだから、約1000m上って来た。時間は4時間。遅い時間の日帰りには、まああのペースだった。

1人で準備を終え滑降。雪渓を左に滑る。雪は悪くなかった。二人の声は聞こえたが、雪渓の向こうで姿は見えなかった。トラバースして行くと二人は居た。ただ、雪渓上なのでスキーが付け難く、なかなか滑降出来ない。エントリーの場所選びは経験の差である。まだ、準備中だった。動画撮影のため先に下る。

雪はマアママアだった。シュプール跡全くない。真っ新な雪面にシュプールを刻む。いつもは、ズタズタな雪面で最悪。恐らく、今シーズン春スキーで最初だろう。

何故なら、周遊道が開通していないと、標高約1500mのゲートから歩くか、自転車で来なければならぬ。以前、自転車を利用した人は聞いたことがあるが。

しかし、自転車で上って来て、山に上れるだろうか??ま、知り合いの、石川県の「大魔人」なら考えられるが・・・。(笑い)

二人は中々来ない。急斜面で同じ格好で待っているのは辛い。やっと来たが最初の滑りで、ぎこちなくスピードがない。動画的には、もっとガンガン滑ってもらいたい。

途中、Iが大きくコケた。彼の板は、ちょっと以前の板なので細く長く操作が難しい。足をきつ



滑降・2

ちり揃えてターンしないと、スピードが出てコケ易い。それでも第一ステージを終えて、隣の第二ステージに移動。雪は悪くなかった。

ただ、最後、雪が切れて、結局、六合で終わった。ここに、終了点の目安になる「遭難碑(??)」がある。遭難碑は、「南無日蓮大・・・妙法蓮華経」と刻んであるようだが、ネット検索したが遭難碑か記念碑か何か不明。



遭難碑??



無事帰着



碑より下まで滑れば、その年の雪量はマアマア。上なら少ない。今年は上で終了。やっぱり少ない。2014年5月4日は、五合目まで滑り、歩きはナシだったことを考えると雲泥の差だった。ガラガラの火山礫を歩く。スキー靴は実に歩き難い。

17:25, 夕日を浴びて帰還。大きなアクシデントがなくてよかった。兎に角、喉がカラカラ。靴を脱いで、ドッカと座り、ビアをグッといただいた。

今シーズンの富士山スキーは、余りの少雪で、今回でお終いだらう。でも、富士山には、いつも感謝・感謝である。富士山のお陰で、我々は心身を鍛え、普段の山々に安全に楽しく上れる。静岡県人で良かった。

(了)